

◇ 前 田 弘 幹 君

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員、登壇を願います。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、会派ひかり、前田弘幹です。令和6年度最後の議会ということで、まずは町政70周年記念冠事業に関わった各課の皆さん、大変お疲れさまでございました。次は80周年を目指して頑張っていたきたいと思います。

それでは、通告に従いまして一般質問させていただきます。

1、人口減少下における多文化共生のまちづくりについて。

（1）、町内在住の外国人への支援について。

①、外国人の雇用に際して、事業所及び本人への支援策を伺います。

②、通訳の派遣など生活支援体制について伺います。

③、保育園、学校、児童クラブ等における外国語対応など支援体制について伺います。

④、各担当課の外国語対応の現状について伺います。

⑤、町内在住の外国人など多様な人材を活用し、無償ボランティアではなく、有償の外国語スタッフを雇用する考えについて伺います。

⑥、各国同郷の人たちが集うコミュニティ等の活動への支援策を伺います。

⑦、文化・宗教等、日本人との考え方や慣習の違いを把握し、外国人の立場に立った相談対応や支援体制の必要性について見解を伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「人口減少下における多文化共生のまちづくり」についてのご質問であります。

1項目めの「町内在住の外国人への支援」についてであります。

1点目の「外国人の雇用に際して、事業所及び本人への支援策」についてであります。介護・福祉分野においては、本町においても特定技能外国人を雇用する事業所が増加していることから、令和5年度より、外国人介護人材を雇用する事業所が人材紹介会社に支払う初期費用に対し、1事業所につき年度内に2人分まで、1人につき10万円を上限として補助金を交付しているものであります。

さらに、7年度からは、事業所への補助金を増額するとともに、本人に対しては、初任給までの生活費補助及び就労継続支援金として予算化する考えであります。

2点目の「通訳の派遣など生活支援体制」についてであります。外国人材の定着を図るためには、仕事や生活面など両面で取り組むことが必要であると考えております。

町内のNPO法人では、外国人が困り事を抱えたときに専門機関につなぐ活動等を行っており、町としては連携を図りながら生活支援を行ってまいります。

3点目の「外国語対応など支援体制」についてであります。保育園、児童クラブにおいては、現状では対象児童がいないことから特段の支援は行っておりませんが、学校においては、在籍児童生徒に対し日本語指導教員の配置を行うとともに、保護者に対しては、日本語を理解

できる親族等を通して意思疎通を行うなど、円滑な関係性の構築に努めているところであります。

4点目の「各課における外国語対応」と5点目の「有償の外国語スタッフを雇用する考え」については、関連がありますので一括してお答えいたします。

各課における外国人への対応状況といたしまして、企業や施設等で就労している方は一定程度日本語の理解があることから、必要に応じて専用の翻訳機の設置やスマートフォンの翻訳機能を活用しております。

このことから、コミュニケーションが図れない状況ではないものと捉えているため、現時点で有償による外国語スタッフの雇用については、予定していない状況であります。

6点目の「コミュニティ活動への支援策」と、7点目の「外国人の立場に立った相談・支援体制の必要性」については、関連がありますので一括してお答えいたします。

本町で就労し、生活する外国人への支援につきましては、買物やごみ出しなどの生活全般に関することや地域の方とのつながりづくりが必要であり、町内のNPO法人が中心となりコミュニティづくりを進めていると把握しております。

町としては、支援の状況に応じて各課での対応と庁内連携を進めながら、国籍等を問わず、町民サービスの充実に努めてまいります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、再質問させていただきます。

まず、1と2についてなのですが、外国の方にとって言語、また文化の壁というのは我々が想像するより、またそれ以上に困難なことと考えます。ふだんの生活でも買物、交通の便、習慣など、思ったように聞くことができないものではないでしょうか。現在どのような国から何人の外国人がこのまちに住んでいるか伺います。

○議長（小西秀延君） 久保町民課長。

○町民課長（久保雅計君） 外国人の人数についてお答えいたします。

令和7年2月末現在、先月末現在ですが、21か国で404名の方がいらっしゃいます。多いのがベトナム、インドネシア、中国の方となっております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） では、その人たちから、またその人たちを雇っている企業から何か困り事の相談は受けているか伺います。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） その方々から直接ではないですが、企業のアンケートを通して例えば生活の支援、ごみ出しの問題ですとか、コミュニティの場がないとか、そういったような問題点は出されているところでもあります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） では、それについて、それを受けて行政として何かしらの支援はしているのか伺います。

○議長（小西秀延君） 工藤生活環境課長。

○生活環境課長（工藤智寿君） ただいま経済振興課長がお話をしたとおり、ごみ出しの件につきましては私ども外国語のごみカレンダーというのを発行してございます。その中で英語版、それから中国語版、それから今お話にありましたベトナム語版、さらに今回、前から議会でご質問をいただいていたインドネシアの方も増えているということで、インドネシア語版につきましても我々職員の中でスマートフォンとにらめっこしながら作って、さらには町内在住のインドネシアの方にこれで間違っていないかどうかということも確認してもらいまして、ようやく完成したところでございます。それにつきましてもホームページ等で公表しておりますので、ぜひ活用していただければと思っていますところでございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 次に、外国人の住環境について伺います。

ある程度大きな会社では独自に寮やアパートなどの施設があると聞いておりますけれども、一般的な方というか、大企業ではなく来ている方はアパートや借家など外国人の利用は結構断られることというのが多い、これは空き店舗なんかもそうなのですけれども、そこでお聞きしたいのは、外国人の公営住宅などの利用状況について、もしあれば伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 大変申し訳ございません。公営住宅に今入居している世帯の数は押さえておりませんので、後ほど答えたいと思います。ただ、外国人の方でも入居されている世帯の方は実際おりますし、あと入居申込みをされている方、こういった方も、実際入居には結びつかないのですけれども、相談ということでは建設課には届いております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 入っているというなかなかイメージがなかったので、あれだったのですけれども、そういった場合、会社の方が連れてくるのか、個人の方が申請に来るのか分からないのですけれども、日本の方と同じような要件で申請をするということでよろしいですか。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 公営住宅に入居される方、会社の方が一緒に来る方もおりますし、入居される方々それぞれで来られる方もおります。ケースについては様々ありますけれども、入居できる要件としては日本人の方と同様に住宅に困窮している方、あとは収入等のそういった制限もありますので、あくまでも日本人と同様に住宅に困窮している方、公営住宅に入居できるその要件に合致した方が対象となっております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） その場合、先ほども出ましたけれども、ごみ問題等々含めて近隣の方

とのぶつかりというか、何か問題は聞こえているでしょうか。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） ただいまのごみの問題ですけれども、直接建設課にはそういった苦情等の相談は寄せられてはおりません。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは次に、③番に移ります。

まず、子供はもちろんですけれども、その親御さんが日本語を話せるか等、それらの調査という聞き取りは、例えば保育園でいえば入園だとか、学校でいえば入学時に聞き取り等の何か調査はしているか伺います。

○議長（小西秀延君） 齋藤子育て支援課長。

○子育て支援課長（齋藤大輔君） 現状は町長の答弁で申し上げたとおりでございますが、特段調査とかはしていない状況でございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 現在ということでのあれですけれども、今後もしますます外国の方が増えてきて、その限りではないといった場合があった場合、それは現在はないということであれなのですけれども、何かしらの対応策を考えているかだけ伺います。

○議長（小西秀延君） 齋藤子育て支援課長。

○子育て支援課長（齋藤大輔君） 保育園についてはそういったことでございますが、実際子育て支援課に子育て相談として外国の方からの相談は受けております。そういった中においては、当然我々の課だけではなくて、学校教育課、それと学校、それから民生委員や町内会長なども意思疎通を図って適切な支援につなげていくといったような状況の取組も行っているところでございますので、引き続きこういった形でやっていきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、次、⑤に行きたいと思います。

⑤について、外国語を話せる日本人、日本語を話せる外国人、今後公共の施設でそういう人たちの雇う考えはあるか伺います。

○議長（小西秀延君） 鈴木総務課長。

○総務課長（鈴木徳子君） 町長の答弁でも申し上げたとおり、現段階としては外国語が話せる日本人、日本語が話せる外国人、どちらもそこだけに特化して採用とか任用とかということは特段予定はしておりません。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 続いて、⑥番です。

外国人コミュニティへの支援は、これからの白老町にとってとても大事なことだと考えます。

そのコミュニティから情報が受発信されて、このまちに移住する方が増えるかもしれない、労働力も確保できるかもしれない、インバウンド対策に効果的な外国人としての助言をもらえるかもしれないなど有益なことがたくさん考えられると思います。それらを踏まえて、今ある支援策とは別の何かしらの支援策は考えているか伺います。

○議長（小西秀延君） 鈴木総務課長。

○総務課長（鈴木徳子君） 外国の方たちのネットワークというのはとてもスピーディーに情報伝達がされているというところは、今年度NPO法人の方と関わらせていただいている中ではそのようにお聞きしております。また、白老町はとても住みやすいですとか働きやすいというネットワークが広がると、よそから人手を含め、人材確保も含めて連れてきてくれるというネットワークも実はあるのですよということはお聞きしております。ただ、現段階としては我々のまちで実際に個別対応をしっかりと各課で行うところとニーズを踏まえて支援していくという体制を各課連携して取るというところが今一番かなというところで思っておりますので、その状況について特段新たな支援策ということまでは現段階では考えておりません。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 先ほど同僚議員からポロトミンタラの横のお店というか、店舗のことがちょっと出ていたと思うのですけれども、それとはちょっとコンセプトが違うとは思いますが、現在3店舗のうち1店舗が空いているというか、そこの問合せが来ているというような話は聞いていますが、ポロトミンタラ横の物販施設、いわゆるチャレンジショップを外国人コミュニティに、制度があるので、難しいとは思いますが、例えば貸し出せないのか。あそこの場所から例えばポロトミンタラに行くには距離的に相当近いということで、そこにコミュニティがあつて何かしらの人たちが出入りをしていると、もしインバウンドの対応だとか、そういった意味ではなかなかあそこはすごく使い勝手がいいというか、インバウンド対策にもなるし、コミュニティにもなるということで、情報の受発信だとかというメリットがすごくあると思うのですけれども、それらを今後、あくまでも今後、空き店舗になったときに使えるような施策があるのか伺いたいです。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） 今言われましたように、今1店舗、真ん中の店舗が空き店舗になって空いている状態で、今問合せがあるので、今後どうなるか分かりませんが、あそこのチャレンジショップの建てた目的がありますので、それに合致するかどうか今すぐに判断はできませんが、今後空いている状態が長く続くことがあれば当然違った活用方法も考えなければいけないと思いますし、前田議員が言われたようにポロトミンタラには外国人スタッフもいるので、そういった面ではコミュニケーションも取れる場であるのかなとは思いますが、そういった状況になる前に検討はしていきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） では、今度は逆に日本人側からの話をしていきたいです。

まず、現在役場の中に日常会話程度でも十分なのですけれども、英語が話せる職員がどれだけいるか、もし把握していれば教えていただきたいと思います。

○議長（小西秀延君） 鈴木総務課長。

○総務課長（鈴木徳子君） 実際調査したことはございませんが、多分英語を話せる職員は、完全に全く話せるという職員はそんなに、1割いるかいなかかなと思います。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） そうなったときに、実際に今町内に、先ほども言われていましたけれども、21か国から約400人の方がこのまちに住んでいて、大きな企業の寮に入っている人は別として、何か大規模災害があったとき、有事の際に誰が一般の外国人の方に対応できるのかということを経験もしくは考えがあれば伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 鈴木総務課長。

○総務課長（鈴木徳子君） 企業が連れてきてくださっている方たちというのは企業の方たちがきっと避難訓練も含めてされているとは把握しておりますが、それ以外、ご自身で選んで我がまちに来てくださった方たちについての避難に関しては、今予算で提案させていただいているインバウンドの外国語マップにいかに関与できるかというところかなとは思っております。ただ、通常住まわれている方ももちろんですし、ウポポイやポロトミンタラにいらっしゃってくださっている観光客の方も大変外国の方は多くなっておりますので、そういう方たちも併せてたくさんの方たちをしっかりと守れるようにするというところで、来年についてはそのような予算を提案させていただいております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 今回の議会ではないのですが、これまで前の方たちも含めての議会答弁の中で、行政側から外国人支援課的なものの創設という答えがあったと聞いております。先ほど町長も5月、6月以降の部局編成の話も出ていましたけれども、そこで外国人支援課的なものがつくる予定があるのか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大黒副町長。

○副町長（大黒克巳君） 町内には外国人が400人以上住まわれているというような状況の中におきましては、行政といたしましても外国人に対する支援という、手を差し伸べるというところは必要かなと考えてございます。その上で、今までそれぞれ各課でごみ出しの問題だったり、就職の問題だったりというようなところはこれまで各課対応ということで対応させていただいておりました。今回このように増えていく中で、そのような部署を一つつくってという考えもございますが、なかなかやはり行政、いろんな業務を抱えて、相談の対応も多岐にわたっているというような状況からすれば、やはりその担当、担当で外国人の対応をすべきという考えを持っております。ただ、ではどこに行けばいいのという、例えばごみ出しなら生活環境課というのが分かる外国人がいらっしゃればそれは別ですけれども、そうではない場合もありますので、そういう対応の総合的窓口というところはしっかりと設置すべきと考えておりますが、今

議員が言われたような支援課的な、一つの課で全部外国人対応するというようなことは現在のところ考えてございません。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 先ほども言ったように、外国人コミュニティをうまくことつくるというか、やって、ある程度場所を提供すれば、今役所の中で人数がいない中の外国人支援課的な部分ではそれが対応できるものにもなりそうな可能性はあると思います。単純に補助を出して何をしてもらうではなくて、逆にそのコミュニティに支援の窓口を委託するというか、そういう考え方も今後は持っていったほうがいろいろな意味で共存共栄というか、なるのではないかと思います。いかがですか。

○議長（小西秀延君） 鈴木総務課長。

○総務課長（鈴木徳子君） 対応する課については今副町長が答弁したとおりにかと思えます。いらっしゃる町内の外国人材の方はたくさんいらっしゃって、言葉も英語が通じない国の方たちも多いように把握しておりますので、そういう方たちを町内の中で活用するという事は有効ではあると捉えております。今NPO法人でコミュニティづくりでいろいろ働きかけをしてくださっていて、そちらとも総務課でもいろいろ支援等も含めて状況は把握させていただきながら対応を進めている現状もあります。令和6年度は、そういうたくさんの方たちが集まるコミュニティのフェスみたいなものもされた中で、いろいろお互い顔見知りになっていってネットワークができてつがあると我々も把握しておりますので、そこは今後の中で支援の部分についてどのようなことが一番よろしいのかというのは改めてまた確認してまいりたいと思います。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） これが最後になります。

多文化共生のまち白老において、外国人移住者も我々と共生していくこのまちの住民です。文化や宗教の違いなど、異なる習慣があっても一緒に手を取り合い、助け合い、支え合い、このまちで豊かな人生を送っていけるよう行政支援を期待しております。日本人のみならず、外国人の増加もこのまちにとっては大きな動きとなります。先ほども言いましたが、外国人のほうがかしらの白老町に来てくれという、このまちに住んでくれ、働いてくれという呼びかけは、我々が発信するよりも大変力強いものがあると思います。また、いろいろな情報も我々がその国の言葉に変換したりだとかするよりも、その国の人たちが情報を提供したほうが効果的だと思います。それらを踏まえて町長から今後の外国人対応の思いを聞いて、この質問を終わらせたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 町内在住の外国人の支援についてのご質問をいただきました。担当課長からお話があったように、現在400人の外国人の方々が住民登録があるというような状況の中で、今後この数というのが増えていく、増加していくというような見込みもある中で、やはり外国人の方々への支援というのもしっかりしていかなければならないと考えております。ご承

知のとおり、2027年から育成就労制度ということで外国人の方々も転籍をするというような状況の中で、先ほど担当課長からアンケート結果であったりですか、あと私は直接的に事業者の方から外国人にも住みやすいまちづくりをしてくれよというようなお話をいただいているところでございます。

そういった中で、行政で外国人の方々に住んでいただけるということをしなければならないこととしては、まず外国の方々が地域で活動を促進できるような状況をつくらなければならないということと、あとは住民の国際意識の醸成、そして企業への支援ということが必要だと言われております。今この3つの中で本町として足りていないものは何かと考えたときに、やっぱり住民の皆さんの国際意識の醸成といいますか、外国人の方々とのつながりといいますか、そういったことがちょっと欠けているというか、これが行政としてやるべきことというか、進めるべき道かなと考えております。現状といたしましては、NPO法人の力を借りてコミュニティづくりというような中で進めておりますので、ここはまちとしてもしっかり連携を取って、そして独自の部分を含めてしっかりと外国人の方々にも住みやすいまちづくりというようなことで取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 先ほどの前田弘幹議員の質問の中で答弁漏れがありましたので、先に説明をさせたいと思います。

瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） すみません。答弁が遅くなってしまって申し訳ございません。公営住宅等に入居されている外国人の世帯数になりますけれども、町営住宅についてはゼロ件となっております。町有一般住宅につきましては1世帯で1戸、こちらが入居されているような状況となっております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、続いて2番目に移りたいと思います。

2、将来を見据えたまちづくりについて。

（1）、新庁舎建設に向けた進捗状況について。

①、建設予定地の選定を含め、庁内での検討の進捗状況について伺います。

②、モデルとする他の自治体庁舎はあるのか伺います。

（2）、町内企業との関係性の構築について。

町内企業の移転や撤退等の情報をいち早く収集し対応するため、日頃からの情報共有や信頼関係の構築が重要と考えるが、町の対応の現状と今後の展望について伺います。

（3）、旧社台小学校の利活用について。

①、高齢者大学の旧社台小への移転凍結が示されたが、今後の利活用の考えについて伺います。

②、社台地区の防災の観点から、旧社台小の利活用を含めた早急な対策の検討が必要と考えるが、見解を伺います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。



〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「将来を見据えたまちづくり」についてのご質問であります。

1 項目めの「新庁舎建設に向けた進捗状況」についてであります。

1 点目の「建設予定地の選定など庁内の検討状況」についてであります。庁舎建設の検討委員会をはじめ、これまで内部での協議を重ねてまいりました。

現在、具体的な建設予定地の選定や建設規模などを絞り込む状況にあり、庁舎機能及び複合化する施設、財源などの課題を整理し方向性を示した上で、懇話会での意見を踏まえ、基本計画の策定に取り組んでまいります。

今後は、建設候補予定地を町民へ示していくとともに、庁舎建設に向けた工程を明確化していきたいと考えております。

2 点目の「モデルとする他の自治体庁舎」についてであります。現在の庁舎は、耐震性や築年数、立地構造の面から地震、津波や洪水災害への対応に支障があることから、防災に強い庁舎を目指す観点で、道内及び道外沿岸部に位置する他市町の庁舎建設状況を参考に検討、研究を進めております。

近年は、執務室や窓口以外に町民向けの交流・学習スペースを併設したり、閉庁時には集会所として利用可能とするなど、コミュニティの充実を図り町民に親しまれる庁舎の建設が増えてきております。

このことから、本町においても防災拠点機能の充実だけでなく、他の公共施設との複合化を図り、町民の方が集える庁舎を目指していく考えであります。

2 項目めの「町内企業との関係性の構築」についてであります。

企業誘致に当たっては、新たな企業に対するアプローチだけではなく、現在本町に進出いただいている企業に対する定期的なフォローアップも重要であるものと捉えていることから、日頃からの情報収集に取り組むとともに、定期的な企業訪問を実施しております。

今後におきましても将来のまちづくりを見据えながら、引き続き町内企業との関係性の構築に努めてまいりたいと考えております。

3 項目めの「旧社台小の利活用」についてであります。

1 点目の「高齢者大学の移転凍結による今後の旧社台小の利活用」と2 点目の「防災の観点からの旧社台小の利活用の検討」については、関連がありますので一括してお答えいたします。

高齢者大学の旧社台小学校への移転につきましては、利便性や整備費用等を勘案し、事業凍結といたしました。

一方で、社台地区における防災対策の課題は、津波災害時における指定緊急避難場所までの避難経路や垂直避難ができる場所などの環境整備と捉えております。

旧社台小学校につきましては、専門家の意見や地域住民との対話を図りながら、施設の活用を含め、課題解決に向けた検討を進めてまいります。

○議長（小西秀延君） 6 番、前田弘幹議員。

〔6 番 前田弘幹君登壇〕

○6 番（前田弘幹君） それでは、再質問させていただきます。

この3項目は、代表質問でも、今回の一般質問でもほぼ出ているような話なのですが、本来令和6年にやろうとしていた事業が新庁舎の話合いだったと思っています。令和7年度に今のところ場所の選定を決定しますというような話でありますけれども、実際多分令和6年からやろうとしていたことが令和6年になって、令和7年になってということで、そうなるとうどん工事遅れて、このご時世、なかなか半年遅れたら材料費も何%上がるというぐらいどんどん世の中が進んでいる中で、実際もともと当初予算の中で完成まで何十億円というのがあって、それがどんどん聞かたびにやっぱり値段が上がってしまうという部分もあるとは思っています。また、令和7年度に場所を決定するとなっても、実際それがまた幾らになるかというのは現実的にかけ離れた数字になるのではないかと思いますので、その見解を伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 太田政策推進課長。

○政策推進課長（太田 誠君） 令和6年度に懇話会を設置してというようなことで予算を令和6年度としては計上させていただいたところでございます。9月、12月会議でもご答弁させていただきましたが、懇話会の設置には至っていないというのが現状であります。基本構想の策定後、令和3年7月に日本海溝、千島海溝の巨大地震による津波の想定ということで新たに浸水域が拡大したというところで、基本構想時よりその建設場所であったり、そういうのを増やしながら議論を進めてきておったところでございますけれども、建設場所、規模、複合化する施設、財政負担など、しっかりとした議論がまとまらなかったというところから総合的に判断できなかったというところで、庁舎の明確な工程というものは遅れているというようなことでございます。

前田議員が言うとおりの、今物価高騰ですとか働く人が少ないということで人件費の高騰ということで、副町長の答弁でもあったように基本構想は令和3年3月に策定していて、そのときに約40億円ということで、今は物価高騰、近隣市町村のものも参考にすると、やはり1.5倍から2倍というような価格高騰があると。そういった中では、今だから70億円とか80億円、外構を含めると、もう少しもしかしたら高くなるような現状として捉えております。答弁とも重なりますけれども、現在庁舎建設等の検討委員会で具体的な建設場所を議論しているところでございます。その議論、場所が決まった後に建設規模ですとか、財源の部分だとかという課題を整理しながら、懇話会での意見を踏まえながら、基本計画の策定に取り組んでまいりたいという考えでございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、次、②ですけれども、これは昨年行った委員会視察のときに言われたことなのですが、大きな決め事をするとき、今でいう例えば本庁舎を造るだとか、本来は病院を造るもそうなのでしょうけれども、そういうときは関係各所並びに議員全員で、ここにもあるように、こういうモデルの庁舎を造りたいというものがあればそこに皆さんで視察に行って、その場でこういうのはいいよねとか、こういうのを変えたほうがいいよねとかという話をしながらそれを視察すると、その後の話がスムーズに進むことが多いと言わ

れました。今回予算のことはまだあれですけども、ぜひとも、せつかくという言い方も変ですけども、遅れに遅れてまだ進んでいないという現状を踏まえたら、ここは一度原点に立ち戻ってみんなで一回視察するというのも一つの手かなと思いますけれども、その見解を伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 太田政策推進課長。

○政策推進課長（太田 誠君） 先進地の視察ということかと思います。実は令和3年度と令和4年度、令和3年度においては建築技術職の方と検討委員の方で道外に1件、道内に1件、令和4年度におきましても、ここは庁舎建設検討委員会の中に専門部会ということで、専門部会の方には若い職員も入っていたのですけれども、若い職員と防災担当で東北のほうに行っているというような視察の経過となっております。実は今年度も隣町の登別市で庁舎改築をやっていきますので、我々担当が出向いて担当者と意見を交わしたりだとか、民間企業が行うオフィス環境というのですか、今働き方改革だとかいろいろ言われていますので、そういうところでは数回行っているところがございますので、やはりみんなで見てということで、その見てきた結果を例えば検討委員会の皆様ですとか、ホームページ上で町民に知らせるですとか、そういった考え方は必要になってくるのかなと思いますので、今後議論が深まっていったときにはそのようなことで議会の皆様、町民の皆様、そして職員にもそういう情報共有を図りながら庁舎建設を進めていきたいという考えでございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 言葉を返すようですけども、できれば議論が深まる前に言っていたきたいと思っています。

近年の公共施設、これらの問題が何分本庁舎ができたという部分の枕言葉がつくのかなと感じることが多いと思います。ここを直す、ここをやめるとかというのも新庁舎ができてから、そこに移動するからというような話のことが結構聞くと思うのですけれども、なかなか、言葉は悪いですけども、問題の先送りだとか小手先だけの改修だとかというものは、やはり幾ら予算をつけて何回直してもすぐ壊れてしまうとか、結局無駄になってしまうのです、長い目で見ると。ということも踏まえて、皆さんがお聞きしているように、いつまでに庁舎が建つのですかということはちょっとなかなか答えづらいとは思いますが、町長、令和7年度の計画で庁舎の場所選定までは絶対決めるのだということを伺いたいのですけども、いかがですか。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 庁舎改築のご質問でございます。今様々に担当課長から話をさせていただきました。結論から言うと、当初よりこの庁舎改築の事業については遅れているというのは事実でございます。庁舎の改築につきましては、これまでもいろいろとお話をさせていただいておりますけれども、今後の白老町のまちづくりにとって大きな大きな事業だと捉えております。言い訳になってしまうのですけれども、その裏返しとしては、やはり場所の選定からというようなことの中で、内部の中でも様々に、どういったらいいだろうというような中でなか

なか進みが悪いということは正直なところかなと考えております。今回執行方針の中でもしっかりと令和7年度は工程の明確化を進めていくということで私から述べさせていただいておりますので、しっかりと令和7年度については前へ進めさせていただければと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、次、（2）に移りたいと思います。

皆さんお手持ちの資料の書き方ではちょっと分かりづらかったかと思うのですけれども、これは企業誘致を含めて町内にある大きな事業所ということで考えていただきたいと思います。まず、栄高校の移転問題、これも含めて、まだどうなるかという結果が我々含めて聞こえてきていないというところだと思います。何かあったとき、栄高校に限らず、企業に何かあったとき、そこから行政がいろいろな対応を進めるというのが近年という部分だと思うのですけれども、いろいろなものが後手後手になって足元を見られた交渉事になってしまうと感じております。例えば旭化成も撤退しというような、大手企業がこのまちからなくなれば、関連を含めてなかなか税収の面でも大変だったと思います。現在なくても、例えば某製紙会社等もやはり会社である以上、収益がなければ当然出ていくという可能性もありますし、ほかのところも当然それはしかりだと思います。そうならないために常日頃からの顔合わせだとか、いろいろな情報交換をしながらやっていくことが大切だと思います。その中で、企業巡りをしたときに本社の役員と対話をするのですけれども、今後税収の面から見ても、このまちから企業がなくなるということは、本当にそれは生命線なのかなと思うところであります。それを町長だけが行ってとかではなく、課長だけが行ってではなく、ここも若手職員も同席させて、その職員にも責任を持たせるわけではないのですけれども、長い目で交流をできるような関係をつくってほしいなと感じるところです。出張というものが最近ないのかもしれませんが、何かあったときに町長、課長、若手職員を連れてぜひ白老町に進出企業の本社に行ってもらいたいと思うのですけれども、その辺をどう考えるか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） これは先ほどの飛島議員の企業誘致の関係のご質問と関連するところはあるのですけれども、私も町内の進出していただいている企業、本州方面に本社がある企業も年度数回にわたって訪問させていただいております。時と場合にもよるのですけれども、私と課長と、そしてこの事業の継続性ということも含めてもちろん担当も一緒に同席させて企業訪問させていただいております。その中では事業の進捗状況であったりですとか、あと特に私が言っていることは、この白老町の現状であったりですとか、まちづくりのお話であったりということをしっかりと企業の皆さんにお伝えをして、そして情報共有、情報交換をさせていただいております。議員ご指摘のとおり、そういったことが、人と人とのつながりというものもございますので、そういったお会いしてお話をするということが今後も継続的に町内で事業展開をしていただけるところにつながっていくと思っておりますので、引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） これもなかなか、ピンチの裏返しのチャンスではないですけども、見方を変えればこれなんかも、本来あってはいけないことだとは思いますが、もしあそこの場所が空き地になったらという言い方も変ですけども、何もなくなったときに君たちはどう思うのだということで、若手職員に一つの勉強としてあそこが空き地になったら君らは何を誘致するとか、何をやりたいというようなことをやらせながら、まちづくりを考えさせるいい材料かなとは思いますが、その辺はどう考えるか見解を伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） ちょっとあまり、例としてはどうかなという部分は正直あるところなわけですけれども、今後も将来のまちづくりというのは様々に若手職員に投げかけていると思いますか、よくこれからは若いやつらの世代だからということではなくて、町職員として今後将来白老町としてあるべき姿はどうかということはしっかりと若い職員にも考えてもらったりですとか、あとは先ほどの庁舎のお話もそうなのですけども、今後庁舎が建ったときには私たち世代ではなくて若手世代が中心となって庁舎を活用してまちづくりをしていくわけですから、そういったことで白老町の将来あるべき姿をしっかりと若手職員に考えてもらうとか、まちづくりのビジョンをしっかりと持ってもらうということは大事なことで私認識しているところであります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 次に、（3）に移りたいと思います。

社台地区、よく言われていますけれども、津波になったらどうするのだという話があって、社台地区はずっと平たんで高いものもないということで、そういった意味ではやっぱり旧社台小学校、防災にという部分に特化すれば、現状としては有効利用できる施設だと私は思っていますけれども、町はどう考えているか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 鈴木総務課長。

○総務課長（鈴木徳子君） 旧社台小学校を防災対策に活用は現段階として、これまで津波救命艇ですとかタワーですとかということがこの議場の中でもお話をさせていただいている中で、仮に旧社台小学校に避難タワーをせりつけようとしたときには残念ながら旧社台小学校の土台は多分もたないだろうと。となると、新たに新設、タワーを造るとしたら新設ということになるということもあるものですから、旧社台小学校を改修、改装してまでの利活用、防災地区としての利活用としては、現段階としてはなかなかちょっとまだ手をつけづらい状況なのかなという捉えになっております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 高齢者大学、またスポーツコミュニティでの利用が先日の全協で凍結された、これは理解はするところでありますが、修繕として内装をやるということは別として、ああいう建物は外装をまず先に直さないとどんどん、中はいつでもできると思うの

ですけれども、外装、例えば屋根が穴が開いているとか、そういった面では長くというか、置けば置くほど費用がかかる、そんな状況になると思います。今のところ別の利活用方法を考えているのか伺います。

○議長（小西秀延君） 鈴木総務課長。

○総務課長（鈴木徳子君） 高齢者大学の移転凍結はしましたが、当初旧社台小学校の利活用をどうしようかという庁内の中での検討の中からこの流れであったところであります。この話を社台地区の方たちにお伝えしたときに、やはり防災の部分も要望として旧社台小学校の利活用のご要望があったことも伺ってはおります。この部分については、旧社台小学校の利活用が今凍結したという中においては、社台の地域の方たちがどのように考えていらっしゃるかというところは何人かの方ですが、ご意見はお伺いさせていただいているような現状もあります。津波のこともご心配はもちろんされているのですが、火山です。樽前山が噴火したときのことも非常に懸念されていて、その辺りもというところは伺っておりますので、旧社台小学校の利活用中心というよりは、私のところで考えるのはまず社台地域の防災対策は急ぐのではないかとということで、ここについては早急に手をつけなければいけないとは考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 昨年の3月会議、一般質問で私が防災や災害にはいつまで、どこまでという制限がない、できるだけ早くにできること、できるもの、できるだけスピードをもって取り組まなければと考える。財政面でも当然大変なことだとは思いますが、各町内会と連携し、今何が早急に必要なものか、少し待てるものかなど協議しながら、少しでも前進する安心、安全なまちをつくっていただきたいと思いますということで言わせていただきました。残念ながら結局防災施設、ソフトの面は分かりますけれども、ハードの面、この1年で何か一つでも進んだのか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 鈴木総務課長。

○総務課長（鈴木徳子君） ハードの面では残念ながら進んではおりません。ただ、令和6年度の中では社台地区の津波避難タワーも含めてのハード面の整備についての検討についてはかなり協議を重ねてはきて、形としては今回令和7年度にお示しはできておりませんが、緊急事業計画を含めてのところの動きとしては令和6年度はある程度検討のほうは進めさせていただいたと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） これまで言ったとおり、白老町、今のところ全て待ったなしの状況なのです、防災として考えたら。これは段階的にと計画的にとか言うてはいるのは分かりますが、全くそれでは進んでいかないのと同じだと。今朝のテレビでも、ここ近いうちといっても何年から40年の間とは言っていましたけれども、北海道の道東、南側のほうで大きな地震が起きるのではないかとされていました。津波はないにしろ、本当に防災ということで考えると、なかなか皆さん、町民の方はドキドキしているのではないかと思います。町長がこのまちの町

民をみんな守るのだという方策の下、1年動いてきたけれども、結果的に今のところは残念なことになっていると。旧社台小学校が当たり前にお金を取って誰かに貸すだとかという部分では無理だというのは承知ですけれども、例えばあそこを防災の練習施設にするだとか、炊き出しの練習施設にするだとか、体育館にある程度の備品を入れてそういう訓練に使うというようなことはできるのではないかと考えています。これはしらおい防災マスター会も含めてその辺の協議はしていかなければいけない部分ではあると思うのですけれども、今あるものをそのまま黙っていたら朽ちていくだけなので、第三者に貸すのは大変抵抗があると思うのですけれども、あくまでもこのまちの防災の一つとしてそういう有効的な使い方をできないのか見解を伺います。

○議長（小西秀延君） 大黒副町長。

○副町長（大黒克己君） 旧社台小学校の利活用の関係でございますが、今議員から防災の練習施設、訓練施設というようなご提言もいただきました。そういうことについても決して不可能ではないという考えを持っております。ただ、残すにしても、先ほど議員もおっしゃられたように、屋根がかなり朽ちてきているとか、外壁も修繕しなければならないというようなところで、そこについても今後手をかければ数億円かかるというような状況の中で、あの施設をそのような形で残すことがいいのかどうなのかというところも十分検討しなければならないと考えているところでございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、これで最後にしたいと思います。

ちょっと言い方が適当ではないかもしれませんが、ちょっとだけ聞いていただきたいと思います。町長、10年後、50年後、このまちのグランドデザインを描いていますか。任期中だけではなく、将来このまちをどうしたいのか。現実的に難しいことでも将来コンパクトなまちを目指します。例えば虎杖浜は水産特区にする、社台は農業特区にする、鉄北は観光特区にする、鉄南は商業特区にするとか、このまちは長くて人口がどんどん減っていくのは目に見えているのですけれども、それをそのままの大きさと人口が減るだけだと、それこそ上下水道を含めて現実的には多分今出ている金額よりももっともっと大変になる。これは、このまちの子は宝という話の中でいけば、今は子ですけれども、その人がいざ成人して実際に税金を払ったりとかすることになるときに相当な負担を強いることになる。では、これがいいのか。なかなか高齢者の方も、例えば高齢者大学のときもそうですけれども、行きたくない、動きたくないという人も当然いるのです。だけれども、まちに迷惑をかけたくないから、そんなことはしなくていいよとかという人も一定数いるのです。それを踏まえた中で、前にちょっと言わせていただきましたけれども、例えば公営住宅、これの建て替えのときとかもそうですけれども、なるべくコンパクトにするような考え方を言いながら理解を得る、そうすることによって公共交通もちょっと回転が速くなるだとかという考え方でもできるのではないかな、財政出動もそれで少なくなるのではないかなということをやっていただきたい。これまでと、このまちができてそれこそ70周年になって、同じことをやっていたら、当然人口は減るのですから、できない

ことになりますね、間違いなく。できることをできないふりをするという言い方は変ですけども、そういうことをやめて、やっぱりできることから一步、何ができるのだということを考え、ぜひこの白老町のグランドデザインを描いた中から今できることを落とし込んでまちづくりをやっていただきたいと思います。

我々若手団体のときから言われていたのができない理由を考えるなど、どうやったらできるかを考えよう、これを町長にまちのリーダーとしてやっていただいて、このまちの未来予想図をつくっていただきたい。そして、それをこのまちの行政の職員の皆さんの力を借りて実現するための政策をつくっていただきたい。それが2番目でいうところの将来を見据えたまちづくりについての言いたかったことであります。町長が考える現在の未来予想図を伺って終わりにしたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 将来の未来予想図というご質問をいただきました。ちょうど議員からコンパクトシティーというようなお話があつて、これは今始まった話ではなくて、やっぱり将来を見据えたときにはこのコンパクトシティーというのは、本町の地理的要件を考えても将来的にコンパクトシティー、縮充ということで、都市計画のマスタープランでも定めていますとおり、こういった道に進んでいかなければならないというグランドデザインはできております。今回ちょうど今月上旬に水道事業の今後の在り方ということで、町民の皆さんからも数多く、水道管が町内に張り巡らされているということの中で、やっぱりコンパクトにするべきだというような話もいただきました。そういった中では町民の皆さんも今後のまちを考えたときにはやはりぎゅっとコンパクトにしていくべきだというのは、これは行政側も町民の皆さんも一定限共通点なのかなと捉えているところでございます。今50年後というような話があつて、これから予測されることは人口減少というようなことなのですけれども、私は決してこの人口減少、人口を増やすということを諦めないということで、諦めてしまつては本当に何も始まらないと思っていますので、この人口減少下であっても一人でも多く人口を増やしたいということで、しっかりと今後もまちづくりを進めていきたいと考えております。

白老町は、人に例えますと昨年70歳の誕生日を迎えました。そして、ちょうど50年を経過すると120歳になります。相当な超高齢というようなことになる中で、人間に例えたとしたならば、いつまでも生き生きと元気に過ごすためには何が必要かとなってくると、やっぱりきちんとした栄養素であつたり、そして健康、スポーツであつたり、体を動かしたりというような、そういった要素が必要になってきます。生き生きとまちが元気にするためには。ですから、そういったことを様々に、もちろん50年前、自分は53歳で、生まれたときにここまでデジタル技術が活用することなんてもちろん想像もできていませんし、様々な社会情勢が変わってくるにしろ、この揺るがない70年の本町の地域資源であつたり、文化であつたり、歴史であつたりと、こういったものを活用した中でしっかりと50年後を見据えてまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 以上で6番、前田弘幹議員の一般質問を終了いたします。